

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 平里の家 ユニット 1 (さくら)	評価実施年月日	平成20年10月2日
評価実施構成員氏名	鈴木 和子 佐々木 悠 三上 聖央 佐藤 誠治 新田 香 松井 ゆり子 福澤 里美 鈴木 実花		
記録者氏名	佐藤 誠治	記録年月日	平成20年10月5日

北海道

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
	○地域密着型サービスとしての理念			
1	地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の人々が認知症高齢者を受け止め、自然と共に行動できる地域づくりをめざす。		
	○理念の共有と日々の取組み			
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の生活の中で実践できるように心がけている。		
	○家族や地域への理念の浸透			
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	豊かな自然を暮らしにふんだんに取り入れ、レクリエーションや体操を家族と一緒にやっている。		
2. 地域との支えあい				
	○隣近所とのつきあい			
4	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	お祭りやボランティアバンド、大正琴など、近隣住民の方々に声をかけると観に来てくださり、地域住民と一緒に時間を造っている。		
	○地域とのつきあい			
5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	施設内プログラムから地域活動プログラムする。		
	○事業者の力を活かした地域貢献			
6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町が主催している、「花いっぱい運動」に参加し、地域住民と入居者様が一緒に楽しめるように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
	○評価の意義の理解と活用			
7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価や外部評価の結果を踏まえ、職員全員に伝え改善に向けて検討をしていく。		
	○運営推進会議を活かした取り組み			
8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通じて、取り上げられた意見や助言、又は懸案等、必要に応じ、その都度検討し、サービスの向上に努めている。		
	○市町村との連携			
9	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	関係各機関とは必要に応じ連絡を取り合いサービスの向上に努めている		
	○権利擁護に関する制度の理解と活用			
10	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は関係各機関と連携し、速やかに対応している。 又、職員の意識向上を図る為に、外部研修に積極的に参加するよう、努めていく。		
	○虐待の防止の徹底			
11	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法に基づき、管理者が全職員に指導している。 又、新人研修の一環として取り入れている。		
4. 理念を実践するための体制				
	○契約に関する説明と納得			
12	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、十分に時間をとり、入居者様や御家族様と話し合い理解と納得を頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活の会話や行動から察するように努めていると共に、その思いや意見が十分に反映できるように、職員全員が取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態の変化は随時、御家族様へ連絡している。又、金銭管理においては、金銭出納帳の写しを定期的に御家族様に送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族様からの意見、不満、苦情に対し、管理者が窓口になり運営者とその都度話し合える様になっている。又、必要に応じて職員全員に周知し対応している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のユニット会議や全体会議において、職員の意見や提案を聞き、十分に検討した上で、運営に反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者が、その都度、入居者様に影響が無い範囲内において勤務の調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には異動は無いようにしているが、異動する場合においては、前もって十分に配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の段階に応じて、外部研修等へ参加し職員全体の意識の向上に努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	道南グループホーム協議会を通じ、同業者との情報交換や施設見学、又は外部研修へ参加することにより、サービスの向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	社内親睦会を設立しており、年に2～3回程度、親睦会を開き親交を深めている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員一人一人の状況把握に努め、外部研修等に参加し向上心を持って働けるように配慮している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談があれば、介護支援専門員が自宅や入院中の病院等へ出向き、御本人様と面談し主訴等を聴取している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談があれば介護支援専門員が、御家族様とまず、来所または訪問し、御家族様と面談し、主訴等を聴取しニーズを掘り起こしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居可能な心身状況であれば、それに向けた準備、作業への支援を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が在宅時代に使用していた、家具や衣類等の持ち込みは自由に認めており、また、御家族様との交流も、その関係を絶えることのない様、入居時には定期的な面会の為、来所を御家族様に促している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、日常生活の中でコミュニケーションを多く取り、入居者様と一緒に時間を過ごす様に努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族様と連絡を取り合い、来訪時には積極的に声かけをし、職員は御家族様と共に支援している事を伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	定期的にホーム便りを発行し、行事等に積極的に参加して頂ける様に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様が大切にしてきた物はご自身の部屋で、今まで通り大切にして頂き、又、面会等に来て頂いた方には、再度来訪して頂けるように声かけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるように努 めている。	皆で過ごす事ができる場を作ったり、入居者様同士の関係が柔和になる様に努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わり を必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らな いつきあいを大切にしている。	継続的な関わりを必要とされる入居者様や御家族様に対して、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討して いる。	日常生活の中から、言葉や表情、しぐさ等から感じとり、その人らしく生活できる様に努めてい る。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め ている。	御家族様からの情報で得られない部分は、入居後に入居者御本人様から情報を収集し全職員 に周知し把握することに努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常生活の状態を観察し、心身の状況の変化や、入居者様の出来ることや出来ないことを把握 するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本 人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員監理のもとで、課題分析(アセスメント)の過程より、各スタッフが参加しケアプラ ンのモニタリングやユニット会議や職員会議の際にカンファレンスを行う様、努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護支援専門員監理のもとで、期間に応じて見直しを行い、状態変化時や御本人様、御家族様の御意向にも応じて職員全員で協議し対応している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録の書式は工夫を加え、各入居者様の体調等によって職員全員で情報を共有化する様に取り組んでいる。又、交代勤務者に対しても送りノートへの記載で対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療機関の受診や外出の援助等、可能な限り支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	各関係機関とはその都度連絡を取り合っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問美容サービスを利用している。 又、御本人様や御家族様の希望があれば、他のサービスを受けられるように随時検討している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の委員に、包括支援センター職員を加え情報交換に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時、御本人様と御家族様にかかりつけ医となる病院と医師の説明をし、受診日を決める。出来るだけ希望に添った方向で考える。 常に連携を密にし、体調不良時に適切な医療が受けられるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医が認知症の判定が出来るため介護度の更新時など、関係が良好に努める。 又、暴力などが出てきたら、精神科医とも連携し、診断や治療が受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師と介護員と常に情報を共有し、入居者様の不利益にならないよう努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者様の入院に関しては、医療が受けやすいよう情報交換しながら、毎日、職員が交代で入居者様に淋しい思いをさせないように面会に出向き、御家族様との連絡を密にする。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	見取り看護・介護はしていないが、当ホームで生活出来るぎりぎりまで関わりをもち、御家族様と相談をしながら医療にお任せする事が多い。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	当ホームで出来ることは全て行い、これ以上は無理と判断した場合はかかりつけ医と相談し、医療に任せることと共に、病気の進行状態を順序立てて説明を職員全員にして、御家族様にも十分に説明している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の施設から移る場合は関係者と連携し、情報交換をし、どのような状況でもその人らしく生活が出来る事を、御本人様、御家族様も納得できるように説明、見学も含め対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーの確保の為、入居者様の誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底している。又、記録は入居者様の御家族様の目のふれない所に配置、保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常生活において、好きな食べ物や趣味を把握し御本人様の希望に合わせて支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様一人一人に合わせた暮らしを出来るように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	服を選ぶ時は、職員と一緒に好きな服を選ぶようにしている。又、定期的に訪問美容サービスを利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人の役割をもってもらう。又、一人一人の状態に合わせて後片付けや茶碗拭きを手伝ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者様のその時の状態について配慮した上で、安全に楽しむ事が出来るように支援する。 又、職員の付き添いのもとに喫煙場を設けている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日常生活の状態観察から、排泄パターンや習慣を把握し、出来るだけトイレで排泄をしてもらうように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	全介助者に対しては、リフト浴を行っている。 入浴したい日は希望通りに出来るように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間寝付けない入居者様に対しては原因を探ると共に、安心出来るように、声掛けをし、暖かい飲物等を飲んで頂き、対応している。 又、日常生活のリズムを整えるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	特に行事やイベントのみならず、日常生活の中で役割を見つけ、無理強いする事無く、その人に合わせた支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居時、御本人様、御家族様に対し、十分に金銭監理の重要性や紛失時に対するリスクの説明を行い、その上で、協力を頂きながら、御本人様が管理できる金額を定め、所持管理できるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、ウットデッキにて、ティータイムをしたり、外を散歩するように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事を活用し花見に行ったりドライブに行ったりしている。又、御本人様、御家族様の希望に応じて、いつでも外出、外泊に対応出来るように支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話があり、いつでも自由に使えるようになっている。 又、事務所の電話機の子機を使い自室でゆっくりとお話ができるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	曜日、時間に制限はなく、いつでも面会できるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が身体拘束禁止の正しい知識を理解し取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上、玄関の鍵を閉めるが、日中は鍵をかけず、玄関の戸が開くとセンサーが反応するようになっている。又、入居者様個々の部屋に鍵は一切ない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者様のプライバシーに配慮しながら見守りを徹底する。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	保管が必要な物品は鍵のかかる場所に保管し、必要に応じて対応する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	交代勤務者に対し、申し送りをする時、職員全体で事故防止の為の取り組みの声かけを行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルを作成し職員全員が把握し、マニュアルに沿って行うようにしている。又、消防署等が主催する外部研修への参加をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の指導の下に、防火管理者を中心とし避難訓練又は災害訓練を行っている。又、自衛消防隊を設立している。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	入居時には、御家族様に対し予測されるリスクの状況を説明し、理解した上での入居をお願いしている。又、変化がある度に報告している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々、バイタルチェックをしている。 入居者様、本人様から訴えがあった場合もバイタルチェックを行い、受診を必要とするか、否かの判断をしている。又、対応が決定したら同じようなサービス提供出来るよう、伝達法を使用する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	折にふれ、薬効の説明を行い、副作用を含めこまめに連絡する。又、服薬については原則として口内に入れさせてもらい、飲み込むのを確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取や食事面での工夫をし繊維質の多い献立にするように心がけている。 又、体操や散歩をするようすに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、声掛けをし口腔内の洗浄をしている。義歯の洗浄も毎食後施行している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェック表に記入し一日分の水分と食事量を確認し、記録に残している。又、栄養バランスを考慮したメニューに取り入れている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	気温差のある季節の変わり目など、風邪をひかぬように衣服の調整、寝具の調整を行う。又、手洗いをまめにしよう指導する。 感染症対策として、マニュアル作りで職員全員で取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	○食材の管理			
79	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食事を作る際は、エンボス手袋をしている。又、まな板や布巾、ポット等、毎日消毒、漂白を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫			
80	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	近隣の住民と一緒にホーム周辺に花を植え育てている。 又、行事等を行う際も近隣住民を招待し入居者様達と一緒にふれあい、楽しんでもらっている。		
	○居心地のよい共用空間づくり			
81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂やホールは、外からの彩光が入りやすい様に大きい窓を取り付けている。その為、外の景色が見やすくなっており、季節感を十分に堪能できるように配慮している。 又、ホーム内に季節ごとの飾り付けをしている。		
	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり			
82	共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間には、大きなテレビとソファを用意しており、入居者様同士でお話をしたり、新聞や雑誌を読んだり、入居者様ひとりひとりが思い思いに過ごせるように工夫をしている。		
	○居心地よく過ごせる居室の配慮			
83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの道具や家具を持ち込んでもらい、安心した生活を送れるように配慮している。		
	○換気・空調の配慮			
84	気になるにおいや空気のとよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	共有空間や入居者様の各部屋の温度調整、又は、換気は常に行えるように設備している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下や浴室、トイレ等に手摺りを設置している。又、その各所の手摺りに点字があり、玄関の入り口にも点字を設置している。 浴室にはリフトを設置し浴槽に入れるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人一人、出来る事を把握し役割を持ってもらい、安心した生活が出来るようにしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの敷地内に畑を造り、入居者様と一緒に野菜を栽培し、収穫をしている。又、ホーム周辺を散歩したり、ウッドデッキでティータイムをしたり、楽しめるようにしている。 春には、入居者様と一緒に花の種を植えたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐ ①ほぼ毎日のように ☐ ②数日に1回程度 ☒ ③たまに ☐ ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☐ ①大いに増えている ☒ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	☒ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2／3くらいが ☐ ③職員の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2／3くらいが ☐ ③利用者の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2／3くらいが ☐ ③家族等の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）